

## 大阪湾と夢洲とコンテナターミナル

写真は『PORT of OSAKA』（大阪市港湾局、2019年12月）の大阪港概略図。大阪港は、コンテナターミナル、フェリーターミナルのほか、さまざまな物流関連施設が集積し、西日本の一大物流拠点を形成している。埋立地には港湾機能とともに、文化・スポーツ、集客施設、住宅、官庁などが立ち並び、さらなる開発が進められている。



「大阪港は近畿圏の経済・産業活動や安定した市民生活を支える安定した市民生活を支える都市型港湾としての役割を果たしています。しかし近年、わが国の産業や港湾を取り巻く情勢は大きく変化しています。そこで大阪港では、さまざまな物流機能を強化し、情勢の変化に対応できるよう取り組んでいます。まずコンテナ船の大型化に対応して主航路の増深、拡幅を行うとともに、夢洲を新たなコンテナ物流の拠点と位置づけ、高水準のコンテナ物流サービスを実現できる場を提供し、増加するコンテナ需要に応えていきます。あわせて、咲洲では既存埠頭を外貿多目的船・専用船、内貿 RORP 船・フェリーに対応する埠頭に利用転換し、より利用しやすい港湾の実現をめざします。その第一歩として、咲洲 R 岸壁のフェリーターミナルへの利用転換に取り組んでおり、…」

写真下は夢洲の岸壁延長1350mの高規格コンテナターミナルである。こうして見ると、夢洲は「負の遺産」などでなく、活発な経済活動が展開されていることがよくわかる。



「夢洲コンテナターミナル C-10～12 においては、メガオペレーターである夢洲コンテナターミナル(株)が一体運営し、バースウィンドウやヤードプランニングを一元的にコントロールすることにより、効率的なコンテナ荷役を実現しています。平成 29 年 2 月には、C-12(延伸部)岸壁の運営を開始しており、引き続き岸壁背後のコンテナヤードの整備を進めていきます。」

道路を挟んだ敷地には、IR という名のカジノ、そして万博会場が予定されている。その奥には「メガソーラ」も見える。夢洲はカジノ・万博だけでなく、大阪経済、生活を支える物流拠点として注目されなくてはならない。

(2020年3月10日)